資料３－１

１）乳児のスキンケアと離乳食に関する啓発パンフレットについて

近年、小児のアレルギー疾患、とくに食物アレルギーは、その発症要因として乳児期のアトピー性皮膚炎が関係することが、多くの疫学研究で明らかにされ、発症予防には早期のスキンケアがたいせつであると考えられている。また、アレルギーを心配するあまり、離乳食を遅らせるなどすると、かえって食物アレルギーが発症しやすいこともわかり、「授乳・離乳の支援ガイド」にもとづいた正しい離乳食の重要性も改めて認識されている。

そこで、三重県と大塚製薬が包括協定を結び、乳児のスキンケアと離乳食についての啓発パンフレットが作成されたので、広くご利用いただけると幸いです。

（内容）
大人と赤ちゃんの肌の違い
赤ちゃんの体を洗うときのポイント
離乳食「支援ガイド」の紹介
医療機関受診のタイミング
関連 URL の紹介

（英語、中国語、ポルトガル語対応）

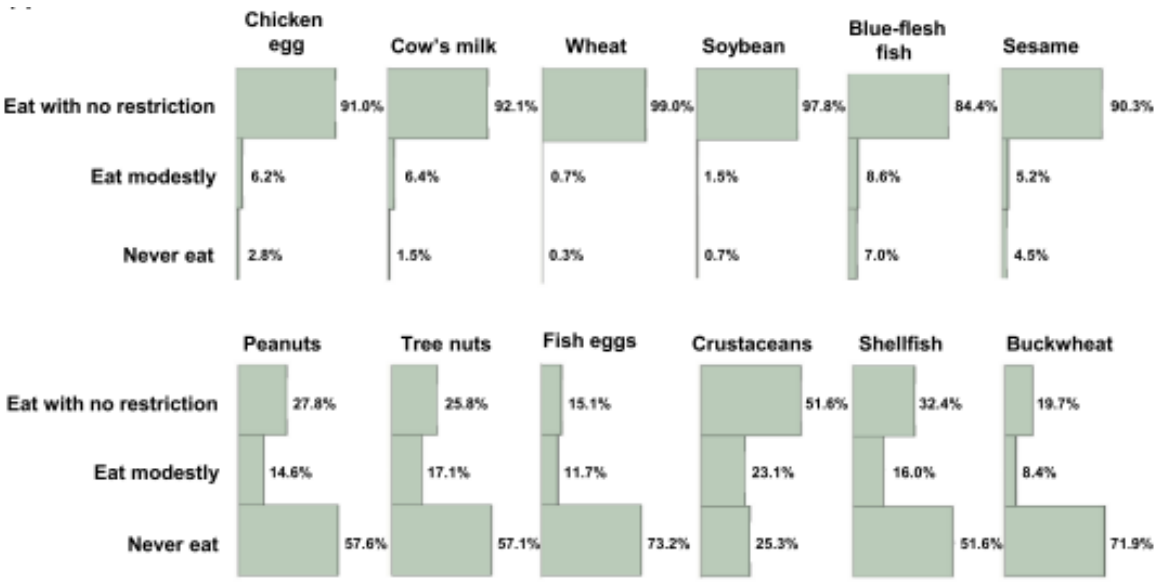
２）乳幼児健診における食物アレルギー等に係るアンケート調査結果（三重県）

三重県は、2020 年 9－11 月に津市および鈴鹿市で行われた 1 歳半、3 歳健診で、乳幼児の食物アレルギー等の実態について調査した。健診に来られた 1720 名にアンケートを依頼 1603 名が回答されたが、この結果は日本衛生学会の学術誌「Environmental Health and Preventive Medicine」に投稿、掲載された。http://www.nihon-eisei.org/activity/journals/ehpm-gate/

Takase T, Nagao M, Kanai R, Nishida T, Arima T, Iwai F, Yamada S, Nakamoto M, Hirayama M, Fujisawa T. Intake of allergenic foods at 1.5 years and 3 years of age in a general child population in Japan: a cross-sectional study. Environ Health Prev Med 2023; 28: 6-14.　DOI: 10.1265/ehpm.22-00213

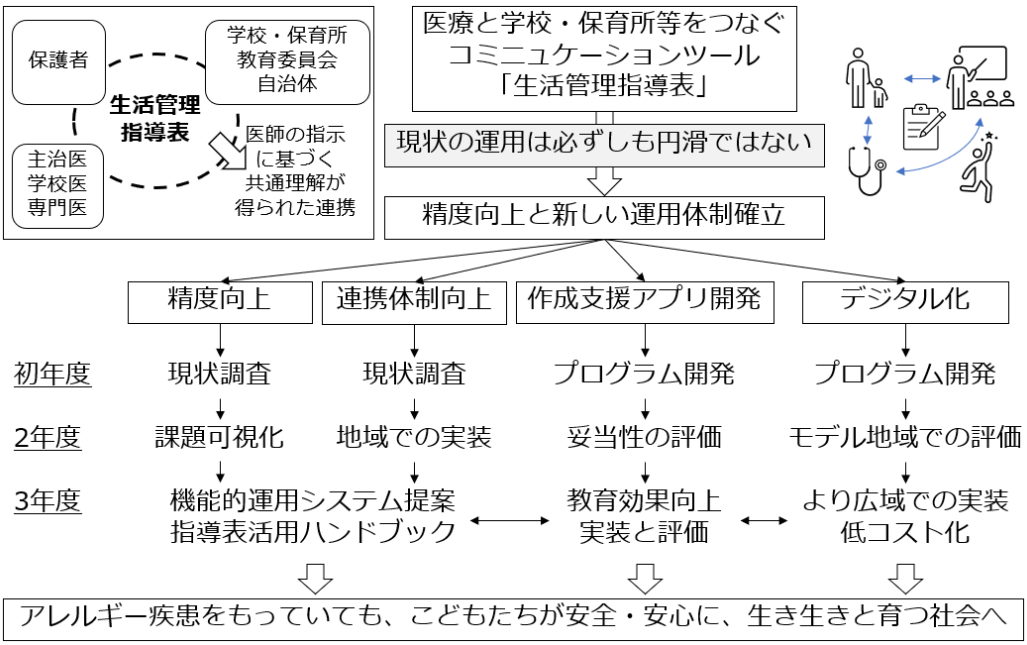
調査の結果、ピーナッツ、ナッツ類、魚卵、貝類、そばについて、医学的な根拠がないまま、こどもに与えないようにしている保護者が多いことが明らかになった。海外では、家庭でピーナッツを大人がよく食べる一方（＝家庭内で微量のピーナッツアレルゲンがホコリの中に存在、子どもにアトピー性皮膚炎があると皮膚からアレルゲンが侵入しやすい状況)、こどもには与えないようにしていたところ（＝耐性は食べることで誘導されるが)、ピーナッツアレルギーが増えたこと、逆に、早期に与えるとピーナッツアレルギーが減ったことが明らかにされている。わが国では、近年の健康志向により、ナッツ類の消費が増えているが、これまで少なかったクルミアレルギーが急増している。これらを総合すると、症状もないのに特定の食べ物を避けるのではなく、安全な形で（低年齢児に粒の状態で与えると誤飲のリスクがあるので）与えることがアレルギー発症予防に望ましいのではないかと考えられた。

資料３－１



3）生活管理指導表（アレルギー疾患用）の運用改善に向けた政策研究

アレルギー疾患（とくに食物アレルギー）をもつ子どもが学校・保育園等で安全に過ごすことができるよう、生活管理指導表（アレルギー疾患用）が運用され（日本学校保健会、厚生労働省）、教育の場でも守られているが、運用上の問題点は少なからず残る。

そこで、令和 5－7 年度の厚生労働科学研究費補助金免疫アレルギー疾患政策研究事業で、この課題について公募があり、「学校・保育所等におけるアレルギー疾患児の安心・安全・生き生きとした活動を保証する生活管理指導表の運用・管理体制向上をめざす研究（研究代表者：藤澤隆夫__国立病院機構三重病院）」が採択された。現状調査から開始される予定であるが、三重県の皆様からも、お気づきの点をご教示いただけると幸いです。

（三重県教育委員会に協力依頼予定）